

第144回 日商簿記検定試験 2級 一商業簿記一

解 説

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

第1問

1. ソフトウェアの開発依頼時に契約金額をソフトウェア仮勘定として計上しているため、当該金額をソフトウェアに振り替える。また、最終代金の支払いも同時に行われているため未払金を取り崩す。なお、本問の一連の流れは次のとおりである。

(1) 開発依頼時

(借) ソフトウェア仮勘定	30,000,000	(貸) 未払金	30,000,000
---------------	------------	---------	------------

(2) 代金支払時 (1回目、2回目)

(借) 未払金	10,000,000	(貸) 普通預金	10,000,000
---------	------------	----------	------------

(3) 完成時

(借) ソフトウェア	30,000,000	(貸) ソフトウェア仮勘定	30,000,000
(借) 未払金	10,000,000	(貸) 普通預金	10,000,000

2. 固定資産の売却により受け取った手形は主たる営業取引より生じた手形ではないため、営業外受取手形で処理し、売却金額と帳簿価額との差額を土地売却損益で処理する。

当座預金： $\text{¥}40,000,000$ （売却代金） $\times 60\% = \text{¥}24,000,000$

営業外受取手形： $\text{¥}40,000,000 - \text{¥}24,000,000 = \text{¥}16,000,000$

土地売却益： $\text{¥}40,000,000$ （売却代金） $- \text{¥}24,000,000$ （売却簿価） $= \text{¥}16,000,000$

3. クレジット販売により生じた手数料は、支払手数料として問題の指示により販売時に計上する。また、消費税の会計処理は税抜方式であるため、仮受消費税を計上する。

支払手数料： $\text{¥}300,000$ （販売代金） $\times 4\% = \text{¥}12,000$

仮受消費税： $\text{¥}300,000$ （販売代金） $\times 8\%$ （消費税率） $= \text{¥}24,000$

クレジット売掛金： $\text{¥}300,000 + \text{¥}24,000 - \text{¥}12,000 = \text{¥}312,000$

4. 商品の顧客への発送のために要する運賃は、発送費として処理し、商品の購入に関する引取運賃は仕入諸掛であるため、仕入で処理する。また、これらに関する未払代金は、仕入に係るものであるため、買掛金で処理する。なお、商品の発送に関する運賃については、未払金になる点に注意が必要である。

5. 先に取得していた有価証券については、取引先の株式（売買目的、子会社及び関連会社に該当しない）を保有しているため、その他有価証券となる。また、追加で株式を取得することにより子会社になった場合には保有目的の変更を行う必要があり、その他有価証券から子会社株式への振替額は取得原価で振り替える。

子会社株式： $\text{¥}4,000,000 + \text{¥}25,000,000 = \text{¥}29,000,000$

第2問

商品売買に関する問題である。商品売買で本問を完答するためには、商品有高帳を作成する必要がある。また、勘定記入する場合には、下記の仕訳を転記すればよいが、相手勘定科目が2以上に及ぶ場合には「諸口」として記入する。

1. 商品有高帳の作成（払出単価の計算は先入先出法）

甲商品		商 品 有 高 帳								
日 付	摘 要	受 入			払 出			残 高		
		数量 (個)	単価 (円)	金 額 (円)	数量 (個)	単価 (円)	金 額 (円)	数量 (個)	単価 (円)	金 額 (円)
4/ 1	前 期 繰 越	500	3,000	1,500,000				500	3,000	1,500,000
5	A 商 店	200	3,200	640,000				{ 500	3,000	1,500,000
								200	3,200	640,000
6	A 商 店	100	3,200	320,000				{ 500	3,000	1,500,000
								300	3,200	960,000
10	B 商 事				{ 500	3,000	1,500,000			
					50	3,200	160,000	250	3,200	800,000
14	C 商 店	450	3,300	1,485,000				{ 250	3,200	800,000
								450	3,300	1,485,000
20	D 商 事				{ 250	3,200	800,000			
					150	3,300	495,000	300	3,300	990,000
	計				950		2,955,000			
30	商品評価損				300	200	60,000			
〃	次 月 繰 越				300	3,100	930,000			
		1,250		3,945,000	1,250		3,945,000			
5/ 1	前 月 繰 越							300	3,100	930,000

乙商品		商 品 有 高 帳								
日 付	摘 要	受 入			払 出			残 高		
		数量 (個)	単価 (円)	金 額 (円)	数量 (個)	単価 (円)	金 額 (円)	数量 (個)	単価 (円)	金 額 (円)
4/ 1	前 期 繰 越	400	2,500	1,000,000				400	2,500	1,000,000
5	A 商 店	300	2,700	810,000				{ 400	2,500	1,000,000
								300	2,700	810,000
6	A 商 店	100	2,700	270,000				{ 400	2,500	1,000,000
								200	2,700	540,000
14	C 商 店	200	2,300	460,000				{ 400	2,500	1,000,000
								200	2,700	540,000
								200	2,300	460,000
20	D 商 事				400	2,500	1,000,000			
					200	2,700	540,000			
					50	2,300	115,000	150	2,300	345,000
	計				650		1,655,000			
30	商品評価損				150	100	15,000			
〃	次 月 繰 越				150	2,200	330,000			
		800		2,000,000	800		2,000,000			
5/ 1	前 月 繰 越							150	2,200	330,000

※ 仕入戻しについては、本来朱書きであるがゴシックで示すことにする。

2. 各日の処理

(1) 4/ 5

(借) 商	品	1,450,000	(貸) 前	払	金	600,000
			(〃) 買	掛	金	850,000

※ 商品：200 個×¥3,200+300 個×¥2,700=¥1,450,000

※ 買掛金：¥1,450,000－¥600,000（手付金）＝¥850,000

(2) 4/ 6

(借) 商	品	320,000	(貸) 商		品	270,000
			(〃) 買	掛	金	50,000

(3) 4/10

当社では、販売のつど売上原価勘定に振り替える方法を採用している。また、当社の収益の認識は引き渡し日であるため商品を引き渡した日をもって収益を計上する。

(借)	売	掛	金	3,300,000	(貸)	売	上	3,300,000	
(借)	売	上	原	価	1,660,000	(貸)	商	品	1,660,000

※ 売上：550 個×¥6,000=¥3,300,000

※ 売上原価：商品有高帳（甲商品）4/10 より

(4) 4/14

(借) 商	品	1,945,000	(貸) 受	取	手	形	900,000
			(〃) 買	掛	金		1,045,000

※ 商品：450 個×¥3,300+200 個×¥2,300=¥1,945,000

(5) 4/16

(借) 売	上	割	引	3,300	(貸) 売	掛	金	3,300,000
(〃) 現			金	3,296,700				

※ 売上割引：¥3,300,000×1%=¥3,300

(6) 4/20

(借)	売	掛	金	5,850,000	(貸)	売	上	5,850,000	
(借)	売	上	原	価	2,950,000	(貸)	商	品	2,950,000
(借)	発	送	費	8,000	(貸)	現	金	8,000	

※ 売上：400 個×¥6,500+650 個×¥5,000=¥5,850,000

※ 商品有高帳（甲商品、乙商品）4/20 より

(7) 4/21

売上値引きは売上の控除として処理する。

(借) 売	上	975,000	(貸) 売	掛	金	975,000
-------	---	---------	-------	---	---	---------

※ 売上：650 個×¥1,500=¥975,000

(8) 4/25

(借) 電	子	記	録	債	権	800,000	(貸) 売	掛	金	800,000
-------	---	---	---	---	---	---------	-------	---	---	---------

(9) 4/28

前期の売上に対する売上割戻は、売上割戻引当金が設定されているためそれを取り崩し、当期の売り上げに対するものは売上の控除として処理する。

(借) 売	上	割	戻	引	当	金	13,000	(貸) 現	金	20,000
(〃) 売						上	7,000			

(10) 4/30

(借) 商 品 評 価 損	75,000	(貸) 商 品	75,000
(借) 売 上 原 価	75,000	(貸) 商 品 評 価 損	75,000

※ 商品評価損：商品有高帳（甲商品、乙商品）4/30 商品評価損より

- ① 売上高： $\yen3,300,000$ （4/10） $+$ $\yen5,850,000$ （4/20） $-$ $\yen975,000$ （4/21） $-$ $\yen7,000$ （4/28）
 $=\yen8,168,000$
- ② 売上原価： $\yen2,955,000$ （甲商品） $+$ $\yen60,000$ （甲商品評価損） $+$ $\yen1,655,000$ （乙商品）
 $+$ $\yen15,000$ （乙商品評価損） $=\yen4,685,000$
- ③ 売上割戻引当金残高： $\yen24,000$ （前期末売上割戻引当金） $-$ $\yen13,000=\yen11,000$

第3問

1. 調査結果

① 現金実査

現金の帳簿有高より実際有高の方が多いため、雑益を計上する。

(借) 現 金	50	(貸) 雑 益	50
---------	----	---------	----

※ $\yen65,400$ （実際有高） $-$ $\yen65,350$ （帳簿残高） $=\yen50$

② 手形の裏書譲渡

手形の裏書譲渡の決済高については、保証債務等の設定を行っていないため、特に考慮する必要はない。

③ 貸倒れ

前期発生 of 債権が貸倒れた場合には、貸倒引当金の設定対象になっていることから、貸倒引当金で補てんする。なお、補填できない場合には貸倒損失として処理する。

(借) 貸 倒 引 当 金	23,000	(貸) 売 掛 金	23,000
---------------	--------	-----------	--------

④ 固定資産の完成・引き渡し

(借) 建 物	1,500,000	(貸) 建 設 仮 勘 定	1,200,000
		(〃) 当 座 預 金	300,000

2. 貸倒引当金の設定

(借) 貸 倒 引 当 金 繰 入	7,940	(貸) 貸 倒 引 当 金	7,940
-------------------	-------	---------------	-------

※ $\{ \yen280,000$ （前T/B受取手形） $+$ $\yen390,000$ （前T/B売掛金） $-$ $\yen23,000$ $\} \times 2\%$
 $- \{ \yen28,000$ （前T/B貸倒引当金） $-$ $\yen23,000$ $\} = \yen7,940$

3. 有価証券の評価

売買目的の有価証券の決算日の評価は、時価により行い、評価差額は当期の損益として処理する。

(借) 有 価 証 券 評 価 損	4,050	(貸) 売 買 目 的 有 価 証 券	4,050
-------------------	-------	---------------------	-------

※ $\{ \yen41,500$ （A株） $+$ $\yen72,200$ （B株） $+$ $\yen29,800$ （C社債） $\}$ （時価）
 $- \{ \yen37,800$ （A株） $+$ $\yen81,900$ （B株） $+$ $\yen27,850$ （C社債） $\}$ （簿価） $= \triangle \yen4,050$

4. 売上原価の算定及び商品の評価

商品の評価は、まず数量計算より行い、その後価格計算を行う。その場合において、正味売却価額が帳簿価額より下落している場合には商品評価損を計上し、その反対の場合には商品評価益は計上しない（未実現利益であるため）ことに注意が必要である。なお、本問においては、正味売却価額が帳簿価額より下落していないため商品評価損の計上はない。

(借) 仕 入	69,800	(貸) 繰 越 商 品	69,800
(借) 繰 越 商 品	88,150	(貸) 仕 入	88,150
(借) 棚 卸 減 耗 損	1,505	(貸) 繰 越 商 品	1,505

※ 棚卸減耗損： $(410 \text{ 個} - 403 \text{ 個}) \times \yen215 = \yen1,505$

5. 固定資産の減価償却

(借) 減 価 償 却 費	297,390	(貸) 建 物 減 価 償 却 累 計 額	228,750
		(〃) 備 品 減 価 償 却 累 計 額	68,640

※ 建物減価償却累計額：(既存分) $\text{¥}7,500,000$ (前T/B建物) $\times 90\% \div 30$ 年 $= \text{¥}225,000$

(新規取得分) $\text{¥}1,500,000 \times 90\% \div 30$ 年 1 か月 $/ 12$ か月 $= \text{¥}3,750$

備品減価償却累計額：{ $\text{¥}670,000$ (前T/B備品) $- \text{¥}326,800$ (前T/B備品減価償却累計額) }

$\times 20\% = \text{¥}68,640$

6. のれん償却

のれんは、直接法により記帳されるため、未償却額が記載されている点に注意が必要となる。

(借) の れ ん 償 却	28,000	(貸) の れ ん	28,000
---------------	--------	-----------	--------

※ $\text{¥}196,000 \div 7$ 年 (残存期間) $= \text{¥}28,000$

7. 満期保有目的債券

(借) 満 期 保 有 目 的 債 券	1,200	(貸) 有 価 証 券 利 息	1,200
---------------------	-------	-----------------	-------

※ $\text{¥}500,000$ (額面金額) $\times \text{¥}1.2$ (金利調整差額) $/ \text{¥}100 \div 5$ 年 (償却期間) $= \text{¥}1,200$

8. 退職給付引当金

(借) 退 職 給 付 費 用	175,000	(貸) 退 職 給 付 引 当 金	175,000
-----------------	---------	-------------------	---------

9. 保険料

保険料は、毎年同額に向こう1年分の保険料が支払われている。そのため、期首において前期に支払った保険料のうち当期に帰属する分(平成27年4月～平成27年7月)が再振替仕訳により振り替えられている点に注意が必要となる。

(借) 前 払 保 険 料	30,000	(貸) 保 険 料	30,000
---------------	--------	-----------	--------

※ $\text{¥}120,000$ (前T/B保険料) $\times 4$ か月 (平成28年4月～平成28年7月) $/ 16$ か月 (平成27年4月～平成28年7月) $= \text{¥}30,000$